

## 5月定例活動「相生山緑地、森の探検」

小池 敦夫

5月22日(土)10時、トラッグミのヒーヒーという声を聞きながら5月定例会が始まりました。森林インストラクターであり、キノコ・植物何でも来いの川尻秀樹さんを講師にお招きして「相生山緑地、森の探検」を行いました。

総勢27名というメンバーで、日頃訪れていないオアシスの森の南に広がる相生山緑地(計画面積、なんとオアシスの森の6倍の123.4ha)を相変わらずの名調子の川尻節を聞きながら探検しました。



▲川尻節に聞き入る参加者たち

通りがかりに見つけた木や草を題材に、「食の視点」も加えながら説得力のある解説を聞き、感動、感心、感激の連続でした。



▲雨上がり後限定「相生山緑地の水の風景」。是非皆さんも雨上がりの日に探検してみてください！



そして、このところの雨続きの天候のせい、思わぬ所に流れを発見し、土管から流れ落ちる滝や淵の出現にいったいここはどこぞとばかり……驚くやら、感激するやら。

ぐるっと一周4時間の森の探検でした。日頃の活動の場であるオアシスの森とはまた少し違った森の魅力を満喫した1日でした。とにかく広い。疲れた。ビールがうまい。

## 7月定例活動「森の調査」

伊藤 晶子

連日の猛暑の中の調査でしたが、森はずいぶん涼しい。外部と比べるとかなり涼しく、目に映る緑の清々しさも加わって耐えられる範囲でした。

集いの広場及びその周辺A、B、C地区の8年前の写真とデータを基に調査開始。・・・しかし、はじめは木の特定に手間取りました。原因は、参加者それぞれの方向感覚が違っていたことでした。磁石で確認して、各自の思い込みのいい加減さに大爆笑！

一本ずつ高さ、幹周り、枝幅と測っていきました。何も語らない木々ですが、8年という長い年月の間にドラマを繰り広げていました。8年前、調査の前の整備で光をうまく捕らえるチャンスを得た木々はグングンとのびています。最高はA地区のコナラで、高さで6m、幹周りで70cm、枝幅で10mも大きくなっていました。ほかの木に先を越され、かろうじて生きては

いるが、ほとんど伸びず、胴吹きが始まっている木々もあります。光を捕らえきれずに枯死して消滅してしまう木もありました。

里山管理で光条件を考慮することの大切さを見せつけられました。



▲集いの広場での計測作業



▲シンボルツリーを計測中

参考に、シンボルツリーのコナラも測りました。高さ15m、幹周り2.8m、枝幅14.5mで、「本数密度が高いほど直径は小さく、本数密度が小さいほど木の直径は大きい」ことを見事に具現しています。

今後も定期的に調査していくことになりましたので、次回は皆さんも参加して下さい。おもしろいですよ！